

第13回岡高フォーラム

演題「超高齢社会・人口減少社会における地方行政の取り組み」

講師 磯谷裕司氏(高26回)豊田市副市長



講演抄録

前回、同窓会(同年会)を行ったのが定年の歳で、ちょうど建設部長をしていたが、これで肩の荷を下ろしてゆっくりと思っていたところ、現職の話をいただいてそれから4年経った。任期が4年なのでこれで一区切り。

(始めに北大恵迪寮に関するテレビ番組(NHK「新日本紀行」)を一部流して解説をされた)

自分が一番変わったのは大学時代。中学は松平中学。どちらかという真面目で几帳面な性格で、高校の部活は剣道部。北の大地に憧れ、一浪して入学した。

恵迪寮には教養学部の3年間いた。バンカラもあるが、普通の人なら逃げ出すようなひどい生活だった。朝起きると自分の履いてきたはき物が他人に使われてしまい自分のはき物がない、というような生活の中で、ここで変えないと自分は変われないかもしれないという思いもあり、何とか順応できた。全国から何かを探して求めてきた人たちなので、やることは迷いがなく向こう見ずだが一生懸命取り組む、そんないい仲間と知りあえたと思う。

大学を出て感じたのは親への感謝。実家に戻って市役所に入った。

現在の豊田市の市長は岡崎高校の一つ先輩。合言葉「未来のまちをつくろう」で取り組んでいる。平成17年の市町村合併で隣接する4町2村と合併し、矢作川の上流部にある町村を合併したので7割が森林。人口は42.5万人で県内では名古屋市に続いて2番、面積は1番。

最近の話題は、ラグビーのワールドカップ。国内外から多くの方に来ていただき、にぎわった。また、たくさんのボランティアにご活躍いただいた。延べで1300人くらい。来年はWRCの大会があり、それに向けて事前にラリーイベントを実施している。

豊田市の今後について。2030年ごろまで少しずつ人口は増え、その後は減っていく。今は自然減だが、外国の人が増えている。生産人口は減っている。財政状況は健全。災害等に対応するだけの貯蓄はある。ただ、これからは法人住民税の国税化があり、財政的に厳しくなっていくだろう。

豊田市の取り組み『We love とよた』について。まず、地域の資源をうまく活用し利用していこうと考えている。

文化厚生施設として、美術館やコンサートホール、能楽堂、豊田スタジアム、スカイホールなどがある。自然景観では旭地区のしだれ桃、香嵐渓および足助の町並み、小原の四季桜、三河湖、王滝渓谷。歴史と伝統では松平東照宮、挙母の山車8台など。鞍ヶ池公園では民間活用を考えている。

街づくりについて。やはり、箱物行政ではいけない。例えば、駅前の公共空間である道路を、県や警察の等の許可を得て通行止めし、イベントをやったりスポーツをしたり実証実験している。豊田市駅と新豊田駅の間の空中歩道も元々は道路なので、飲食物を出したりイベントを行うことはできなかったが、道路区域を外し利用を自由にしたら飲食物の提供だけでなく、なんと盆踊りなども行われるようになった。

豊田は道路が発達している。高速のインターチェンジは、上郷に作っているスマートインターチェンジを加えると8つになる。ワールドカップのような大きなイベントを契機に、国や県も応援してくれ、例えば豊田北バイパス平戸大橋は、昨年開通した。

スポーツ文化もいろいろ盛んで、いいチームがたくさんある。

歴史と伝統の話を少し。棒の手は豊田市内に4流派、保存会が25ある。国指定の文化財にならないか活動している。農村歌舞伎は歴史が古く、84棟の舞台があり、4つの保存会がある。足助の中馬街道は国の重要伝統的建造物保存地区に指定して、修復している。美術館のクリムト展には20万人の方に来ていただいた。

空飛ぶ車を研究開発している「スカイドライブ」と協定を結んで、モノづくりの拠点や実験場所を提供している。

行政の取り組みについて。中心市街地が停滞しているので何とかして行こうと考えている。ただ今までは箱物行政でうまくいっていないので、地域の方と相談しながら見直しをしていこうと、都心の再整備に取り組んでいる。公園をリニューアルした新とよパーク、トヨシバという芝生広場、矢作川の豊田大橋の周りの水辺環境整備やイベント開催などしている。

いろいろな取り組みをしているが、その中でも特徴的な取り組みを紹介する。

2009年環境モデル都市の指定。自然の環境保全に配慮した低炭素社会の実現を目指した。そして2018年、SDGs未来都市に指定された。SDGsは国連が定めた17の開発目標で、豊田では2030年を目指し、SDGsに合致する取り組み「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を進めている。生活スタイルの違う合併した町村のそれぞれの強みを生かして課題解決していくことを考えている。核として都市部に「豊田市つながる社会実証推進協議会」を設置し、先進技術の実装や実証により持続可能な都市づくりを進めていく。民産学官をつなげていく。エネルギーの地産地消や超高齢社会の対応、交通安全コミュニティの推進、先進技術を活用していこうという取り組み。「おいでん・さんそんセンター」という拠点を田舎に作って、都市と田舎をつなぐ、人と地域をつなぐことをやっていこうと取り組みを進めている。

モビリティ(交通)は電気自動車のシェアリングサービスを始めている。ムサシ、ロボットによる自動車の運転(東大と協定締結)、立ち乗り型の次世代モビリティの普及促進、自動運転実験(名大と協力)など取り組んできた。

高齢化対策は、国の支援を利用して、名大が中心になって、市と足助病院と住民が協力して、健康管理、見守り、移動手手段の提供と情報発信などを進めている。

都市と山村をつなぐ話を。平成25年8月に「おいでん・さんそんセンター」ができた。それぞれの強みを生かした事業を進めている。自然を生かした人材育成も行っている。

「つくラッセル」は廃校になった学校を利用。団体や企業に、テレワーク、シェアオフィスなどで使ってもらっている。

「とよた里山猪肉キーマカレー」という面白いプロジェクトがある。イノシシをとって、加工、流通させる。民間や青年会議所、足助高校などがかわっている。

「人森なりわい塾」では、山村地区でのフィールドワークを通して自分を見つめなおしてもらおう。地域性があり、若い人を求めている地域と相談しながら進めている。人と地域のつながり、人と人、人と企業のつながりが大切。

人がいなくなったら、助け合うしかない。助け合うしくみ作りを進め、住民が住みやすいまちづくりに取り組んでいきたい。